

みどりの風

山口県自然観察指導員協議会 会誌

No.93

2017年 1月（新春号）



私たちは地球生命体の永遠なるいのちを願って活動しています。

スキルアップ情報

2017年度 自然観察指導員講習会 in 山口



日時 平成29年5月13日(土)～14日(日)
場所 山口県山口市徳地船路668
宿泊 山口徳地青少年自然の家
主催 日本自然保護協会・山口県自然観察指導員協議会

2017年度 中国五県自然観察指導員交流会 in 山口



日時 平成29年8月26日(土)～27日(日)
場所 山口県周防大島町外入^{とのにょう}

今後の会議の予定

行事名	開催日時	場所
第2回役員会	平成29年3月上旬 10時～	山口市徳地青少年自然の家
第3回役員会	平成29年6月4日(日) 10時～	下松市中央公民館
第4回役員会	平成29年8月20日(日) 10時～	周防大島町外入

表紙の説明

ハマヒョウタンゴミムシダマシ

海岸性のゴミムシダマシの仲間です。砂浜に漂着した海藻や流木などの下に潜んでいます。

また、砂浜上を活発に歩行する姿も見られます。しかし、体長5mm前後と小さく、しかも、砂の色に似ているため、普通種ではありますが、意外と知られていません。

写真撮影 2016年6月28日 下関市豊北町の海岸

第5支部 松田真紀子

新年にあたり



会長 大田 和彦

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

会長を引き受けてあっという間に一年が過ぎました。去年は、本部のヒゼンマユミ、カタクリ、セツブンソウ等の保全活動や各支部での活動、さらに各地にある「緑の少年隊」への派遣指導をされ、御苦労様でした。創立30周年記念誌も1回目の校正をするところまで進んでいます。

現在、会員数は90名を切り、しかも大多数が中高年です。このままでは会員数は更に減少し、活動も衰退してしまいます。そこで、5月13日～14日に指導員の講習会を行い、新進気鋭の会員を増やし、魅力的で意義のある研修会・観察会を行うなどして活性化を図りたいと思います。

また、8月26日～27日には、周防大島で中国五県指導員交流会が行われます。準備から当日の運営まで大変だと思いますが、御協力よろしくお願いします。

会の活動が充実発展するためには会員の協力が欠かせません。会員が個人で活動すると共に各支部での活動もしてほしいと思います。また、総会には多くの会員が参加し、活発な意見が出るようになることを望みます。

最後になりましたが、皆様方の御健勝と御多幸を祈念いたします。

元旦

萩市笠山の自然 (ジオパーク構想も含めて)

第6支部長 永井要明

2016年11月20日(日)、山口県自然観察指導員協議会の定時総会が午前10時から萩市民館の第三会議室で開催された。11時からジオパーク推進室の福島課長によって阿武・萩火山群のビデオが15分間放映され、それについての質問と応答などがあった。

昼食後、12時30分頃から出発し、12時45分頃には笠山山頂に集合した。まず、展望台の建物の3階に行って、そこに展示してあるパネルを見てもらった。そこには阿武・萩火山群の生い立ちから今日までの地学的説明が描かれていた。この展望所から見える萩6島と見島はいずれも陸上で出来た火山で、そのために溶岩が海水と接触して出来る枕状溶岩が陸上にも海底にも全くない。現在海の中にある島も、氷河期のような海面が今よりもずっと低い位置にあった時期に陸上でできたものであるということが図で示されていた。

単性火山というのも阿武・萩火山群の大きな特徴である。普通の火山は、阿蘇山や九重山のように一つのマグマ溜^{だまり}からいくつかの火口が吹き出している。最初の噴火から今までの時間がそう長くはない。しかし、単性火山は非常に広い地域に粘性の異なる火山が別々のマグマだまりから噴き出している。溶岩は玄武岩(二酸化珪素: SiO_2 が53%未満)、安山岩(53%~62%)、デイサイト(62%~70%)の三種類があり、伊良尾山の溶岩は玄武岩、萩沖の6島や羽賀の台・千石台は玄武岩に近い安山岩の溶岩台地、鍋山・伏馬山等は安山岩のトロイデ火山、佐々並カルデラの一部はデイサイトと、実に多彩な火山が非常に長い年月にわたってできている。このような火山群は日本ではここ以外には、ほとんどないといわれている。

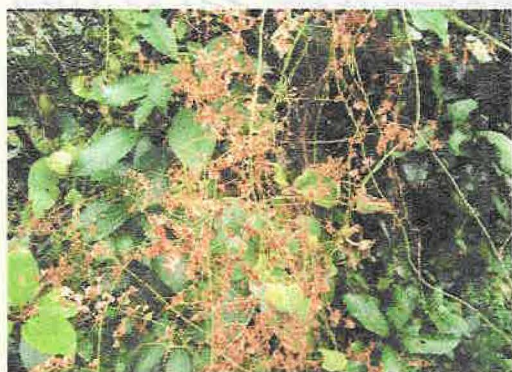


笠山火口での記念写真撮影
(写真提供) 黒田義則

このあと、笠山の火口の周りを一周し、火口に入った。ここで、記念写真を撮った。

その後、一度駐車場に戻り、自然観察を再開した。遊歩道の入り口にツルドクダミの実があった。しばらく歩くと最初の風穴^{かまど}に入る。

ここには「レッドデータブックやまぐち 2002, 3」に準絶滅危惧種として掲載されている



ツルドクダミ

ホソイノデは東北地方ではごく普通にあるそうだが、中国地方では大山の高いところと笠山だけにしかない。本来寒い地方にある夏緑性のシダだが、笠山の風穴は夏でも25℃以下なので、氷河期が過ぎ暖かくなっても生き残れたのである。このホソイノデが有るために、ホソイノデと暖地性のイノデの雑種ができ、これがカサヤマイノデである。同じくホソイノデと暖地性のカタイノデの雑種がカタホソイノデである。暖地性のイノデやカタイノデとホソイノデは本来同じ所に生えていない。



ホウビシダ

バクチノキが10本以上有る。ホウビシダ（RDB準絶滅危惧種）もある。

更に進むともっと本格的な風穴に入る。ロープが張られており、一般人の立ち入りは禁止されている所もある。歩道のそばに立て札があり、ホソイノデ（左下）、カサヤマイノデ、カタホソイノデの説明がある。



バクチノキ

したがって、イノデとホソイノデ、カタイノデとホソイノデの雑種は出来ないはずなのだが、このカサヤマの風穴が夏でも気温が低いという特殊な条件があるために、このような雑種が生まれたのである。勿論、カサヤマイノデとカタホソイノデは今のところ世界中でここしかない。これも笠山をジ

オパークとして認めてもらいたい一つの根拠となっている。因みに、カサヤマイノデとカタホソイノデは大変珍しい、貴重な植物だが「レッドデータブックやまぐち2002, 3」には掲載されていない。シダは雑種が非常に多く、雑種を入れるとRDBに掲載される植種が多くなりすぎるので、雑種は載せないことになった。

次は椿園の中にあるコウライタチバナを見に行った。6本くらい有ったように記憶しているが、4本しか確認出来なかった。2年前はここにタチバナが1本あった。

タチバナは萩市の天然記念物である。枯れる前に周りのヤブツバキを切ってでもタチバナに光を当て生き残れるように萩市にも訴えたが、聞き入れられなかった。椿園が出来る前にも16本くらいタチバナがあったそうである。椿園はもともとヤブツバキとタブノキ他の雑木が混生する原生林のような学術的にも重要な森だったのである。ヤブツバキが4~5割、タブノキが約2割を占めるヤブツバキ・タブ帯の典型的な森だった。それを、観光のためにヤブツバキ以外のほとんどの木を伐採し、ヤブツバキが9割以上を占める「椿群生林」にしたのである。観光客は年間16万人くらいで、2月・3月の観光客が少ない時期にこれだけの観光客が来たのだから、観光的には成功した。萩市職員で樹木医の草野さんは16本有ったタチバナの木は切らないように萩市に言ったそうだが聞き入れられず、2本だけ残ったそうである。その内の1本が枯れたので残るのは1本だけになってしまった。

萩市の職員は教員を除くと約500人である。その内で植物がわかるものは樹木医の草野・杉山の2人と元郷土博物館の学芸員で、現在ジオパーク推進室の伊藤さんの3人だけである。天然記念物を担当する文化財保護課には1人もいない。従って、タチバナ。コウライタチバナなどの貴に困ったことだが、現在のところどうしようもない。



シバナ

ここは初めはタチバナの北限地と言うことで国の天然記念物になったのである。石碑の表には「橘北限地」とあり裏には「内務省」と書かれている。その後、ここのタチバナは2種類有るようだと言われ、萩柑橘試験場の薬師寺さんという人が気づき、標本を東京農大の田中先生に送ったところ、2種類の内1種類は韓国の済州島にあるタチバナと同じで、コウライタチバナと命名され、間もなくここは「コウライタチバナの自生

そこからエビ池に行った。イワタイゲキが青々とした葉を見せている。RDBⅡ類のシバナが既に実になっていた(左)。

そこからトイレに立ち寄った後、国指定天然記念物コウライタチバナの自生地に行った。今年は近年で一番実が多い。



コウライタチバナ

地」として国の天然記念物になったのである。この一番奥にタチバナもある。実の成っているときは実の大きさが違うのでよくわかる。

コウライタチバナは直径4～6cmで、タチバナは1.5～2cmである。葉のつけ根を見る。コウライタチバナは直径4～6cmで、タチバナは1.5～2cmである。葉の付け根を見るとコウライタチバナにははっきりした翼があり、タチバナは翼が目立たない。

ここには他にもイヌザクラ・バクチノキ（どちらもRDB準絶滅危惧種）もあり、5月の連休頃にはナンゴクウランマソウが咲く。



ダルマギク（写真提供）黒田義則



コウライタチバナの自生地から戻って、海岸に出るとダルマギクが咲いていた。

5月の連休頃にはキンギンボク（RDB IA類）の白と黄色の花が咲く。キンギンボクはヒョウタンボクとも言い、8月には直径8mmの赤い二つの実がひょうたんのようにくっついて成る。海岸には溶岩の川と土手もある。

虎ヶ崎に残しておいた4台の車に乗って山頂に戻る途中、ハマボウの北限地に行った。

新しい案内板が3つ立っていて、初めてきた人でも間違えることはない。このハマボウは恐らく樹齢100年以上の老木で、根元の直径は20cmくらいで、一度倒れた後また延びていったような格好をしている。下はエビ池と同じ塩水の池で満潮になると潮水が湧いて来て足下がぬかる。8月には直径4～5cmの黄色い鮮やかな花が咲く。萩市内の各地に植えられており、図書館の南側には街路樹として植えられている。

萩市笠山は地学の方でも大変興味深い所であり、貴重植物の宝庫でもある。貴重植物が豊富なもの、火山性の地質と大いに関係があり、それ故、ジオパークとして認めてもらえれば多くの人にその値打ちがわかってもらえるものと期待しているのである。



三重県民になり、はや半年。まだ伊勢神宮にもお参りしていないし、松阪牛も食べていない。でもキノコバカは元気である。さて、過日。ふらりと京都を訪ねる。

あくまでも古都の美しき神社仏閣を巡る予定だったが、チョットだけキノコスポットでお馴染みの御所へ足を運ぶ。むむ・・・むむむ・・・。立派なおニフスベが生えている！！まだ雨が降らない乾燥した状態の時だったので、あまり目立ったきのこはなかったが、唯一見つけた大きなきのこに、大はしやぎ。

楽しくて、目玉がこんなになっちゃった～♪♪♪

その後、下鴨神社の糺の森では林内の手入れがされているためか、やっぱりきのこは見当たらない。ノウタケ・マンネンタケ・小さなツルタケが数個あったくらい。そんな中、通路の中盤あたり。やっと見つけた大群生。

広葉樹の街路樹などによく発生するヤナギマツタケであった。

ヤナギマツタケは近年、スーパーでも時々見かけるようになった人工栽培される食材きのこ。

実家の母に写真メールを送ると、すかさず『ああ、これは知っちゃうよ！！コリコリしてクセがないから安売りのとき、たまに買うよ。』と返ってくる。



(↑今年初のタマゴタケと、
雨上がりに見つけた可愛いハナオチバタケ)

意外と知名度の上がっているきのこのである。

9月中盤に入り、三重県内もやっとまとまった雨が降る。

夏場に全く出会うことができなかったテングタケの仲間や、イグチの仲間たちがようやくポコポコと顔をのぞかせ始めている。

ソライロタケ発

9月16日、菌曜日。旦那に連れられて、憧れのきのこを探しに行く。

毎年、8月の後半に発生するというポイントがあるが、今年は乾燥著しいため全く生えていないという。何度か観察に行ってみるものの、なかなか見つからない。

数回のチャレンジの末・・・あったっ！！
長年憧れた美しい青いきのこ、ソライロタケ。
人生初の感動的な逢瀬である。本当に美しい！



ソライロタケはイッポンシメジ科で、アカイボカサタケやキイボカサタケとよく似た姿をしている。しかし、この青いきのこだけは今まで一度も出会ったことがなかった。

傘の表面をよく見ると、微細な繊維状の鱗片に覆われている。少しでも触ったり傷を付けたりすると黄色く変色してしまう。そのため、写真に撮るときは、お触り厳禁！！である。

慎重に落ち葉をかき分け、息を止めて、シャッターボタンを押す。それでも興奮のためか、林内が暗いためか、手ブレ気味。こんな時のために、セルフタイマーを使てきのこの激写を行うキノコバカ夫婦であった。

(参考まで・・・右図、分りにくいですが、写真中央に3本生えている。)

ソライロタケは、林内の落ち葉が堆積した地上に発生する。この場所から少し離れた斜面沿いにも別の個体が8本生えていた。1本見つけたら、周りをよく観察してみるとよいかもしれない。それにしても、空色茸だなんて、ぴったりのネーミング。青空のように晴れやかな水色。なぜ菌類がこんなにも神秘的な色を地面の中から生み出すことができるのだろう。やっぱりきのこは不思議で素晴らしい。



↑雨に当たって黄変している傘。



中国五県自然観察指導員交流会に参加して

下松市 大田和彦



三朝温泉元湯には、温泉の由来、白狼伝説にちなんだ像が建立されている。

平成28年10月29日～30日、鳥取県三朝町で中国五県自然観察指導員交流会が行われました。直前に鳥取中部地震が起こり実施が危ぶまれましたが、52名が参加して実施されました。

当日は、最初三徳山三佛寺本堂で米田住職による「そもそも三徳山とは…」のユーモアあふれる楽しい講話がありました。三徳山や三佛寺についての歴史や由緒の話を聞き感心することが多くありました。その後、会場を移動してプランナール三朝へ。開会式の後、鳥取県自然観察指導員連絡会会長の清末さんによる「国立公園三徳山の魅力」の講話がありました。一昨年、三徳山エリアが大山隠岐国立公園に編入されたことや三徳山・三朝温泉が「日本遺産」の第一号に指定されたことなどのお話がありました。夜の懇親会までの時間、三朝温泉を散策したり入浴したりしました。

メインの懇親会では、乾杯の後、中国五県の各連絡会の紹介がユーモアを交えて行われました。約2時間の一次会で親睦を深めた後、会場を移して二次会が行われ、殆どの人が参加して時間も忘れ、各連絡会から持ち寄られた各種の酒や漬け物などを手に情報交換したり名刺交換をしたりして楽しく過ごしました。

2日目、二日酔い気味の体で朝食をとって、自然観察へ向かう。当初は、三徳山投入堂参拝が予定されていたが、地震のため岩にひびが入り入山禁止となったため「小鹿溪」散策に変更となりました。投入堂を楽しむにしていたので残念でしたが、小鹿溪も珍しい植物も観察できて良かったです。予定通り屋前には閉会式が行われ、来年開催の山口の紹介をして終了しました。午後、希望者は三徳山に戻り「三徳山炎の祭典」を見物。この祭りも地震のため実施が危ぶまれたが、鳥取の復興を願って実施された。初めて参加させてもらい、他県からも多くの参拝者があり、歴史や規模の大きさに感心しました。帰りの時間もあるので、火渡りの様子は見ることができず帰路につきました。

最後になりますが、鳥取連絡会には震災後大変な中で交流会の準備から当日の運営まで心遣いいただきありがとうございました。



小鹿溪



三徳山、炎の祭典風景

(写)

平 2 8 環 境 政 策 第 5 1 4 号

平成 2 8 年 (2016 年) 1 1 月 2 4 日

環境やまぐち推進会議委員 様

山口県環境生活部長

冬の「ぶちエコやまぐち～CO₂削減県民運動～」の実施について

本県の環境行政の推進につきましては、平素から格別の御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、県では、省エネ・節電など、地球温暖化防止への取組を更に促進するため、「ぶちエコやまぐち」を合言葉に、CO₂削減県民運動の取組を呼び掛けています。

冬場は特にエネルギー使用量が増大することから、貴会員へ下記取組等の実施の呼び掛けに御協力をいただきますようお願いいたします。

なお、平成 2 8 年 1 1 月 1 日付け 20161031 資庁第 1 号で経済産業省資源エネルギー庁長官から「冬季の省エネルギーの取組について」の通知がありましたので、本県の取組と併せて省エネルギー対策の一層の推進を図られますようお願いいたします。

1 実施期間

平成 2 8 年 1 2 月 1 日～平成 2 9 年 2 月 2 8 日

2 取組内容

- ・ウォームビズ（着るものを工夫して暖房の温度を控えめ設定 等）
- ・エコドライブ（やさしいアクセル操作 等）
- ・ノーマイカー運動（12 月はノーマイカー強化月間）
- ・ライトダウン（不要な電気の消灯、重点日：冬至（12/21））
- ・エコ活動（やまぐち食べきっちる運動 等）

3 ホームページ

<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a15500/buchieco/buchiecoyamaguch.html>



山口県庁 環境政策課 環境企画班

担当：田中友之

TEL 083-933-3030

FAX 083-933-3049

E-mail a15500@pref.yamaguchi.lg.jp

第1支部 平成29年度活動計画

- ・平成28年12月 セツブンソウ自生地保全活動並びに古市節文草保存会総会
- ・平成29年 2月 セツブンソウ自生地公開前整備活動
- ・平成29年2月中旬 セツブンソウ自生地公開
- ・平成29年 5月 研修活動
- ・平成29年 6月 セツブンソウ自生地保全
- ・平成29年 9月 セツブンソウ自生地保全

※詳細については、次にお問い合わせください。

第1支部長 林 節司

電話0827 (72) 3494



セツブンソウ

第2支部 平成29年度活動計画（本部と共催）



カタクリ

- ・平成29年 4月上旬 ヒゼンマユミ自生地保全活動
- ・平成29年 4月中旬 カタクリ自生地保全活動
- ・平成29年 4月29日 カタクリの定点観察と環境学習
- ・平成29年 5月上旬 ヒゼンマユミ自生地保全活動
- ・平成29年 10月中旬 カタクリ自生地保全活動
- ・平成29年 10月中旬 小五郎山登山道整備・植生調査
- ・平成29年 10月下旬 ヒゼンマユミ自生地保全活動

※詳細については、次にお問い合わせください。

本部・第2支部長 大田和彦 電話 0833-46-0103

第5支部長 植田高弘 携帯 090-2861-9762

第3支部 平成29年度 活動計画

2017年も昨年とほぼ同様の活動を予定しています。支部会員の皆様に御協力いただき、何とか行事を盛り上げていきたいと思ひます。

どうぞよろしくお願ひいたします。

20余年実施している佐波川の探鳥会については、同じ場所での定点観察的な行事として継続していきまふ。また、山口県に2ヶ所しかないエヒメアヤメ自生地が防府にあります。全国でも広島・佐賀・宮崎そして愛媛の限られた場所にしか現存していない貴重な植物です。これについては一般開放期間が未定(例年4月初～中旬)ですが、各々新聞等で御確認の上、ご見学下さい。

このほか、3月と8月に防府市の生涯学習関係行事が開催され、これに例年、中野が草の葉バッタ、長津氏がツバキの接ぎ木で参加。手助けいただける方、また自主講座開設可能な方は事前に御連絡ください。

自然の動植物の写真や小物作品等あれば、一緒に展示できますのでご持参下さい。

支部会員の方々、年に一度は観察会等でお会いしましょう。

2017年 自然観察会年間予定

月 日	企 画 内 容 等	場 所 ・ 備 考
3/ 4 (土)	佐波川バードウォッチング 10:00～12:00	佐波川河口周辺 (お・い・スカウト活動の指導)
3/12 (日)	防府 生涯学習フェスティバル 10:00～12:30 (支部会 12:30～13:00)	防府 ルルサス 草の葉バッタ作り 自然動植物等の写真展示 支部会員の方々で参加下さい。
4月上旬	エヒメアヤメ自生地一般開放 防府 生涯学習セミナー	防府 西浦小茅 防府 文化福祉会館 草の葉バッタ作り
8/5 (土)	9:00～12:00	自然動植物等の写真展示

- ・申し込みは、前日までに(なるべく)葉書・FAXで下記まで、住所氏名人数をご連絡下さい。
- ・当日参加も可ですが、資料等準備できない場合があります。

・ 〒747-0835 防府市西浦 735 中野伸治 (Tel・FAX 0835-29-3990)
090-5700-2619 留守電可

第4支部 2017年度 活動計画



1 支部活動報告

第4支部では支部活動はなく、会員各自の自主的な活動を主として行う。

2 緑の少年隊指導

- ・美祢市立川東小学校野鳥観察 (1月：加藤)

3 活動計画

- | | |
|--------|-------------------------|
| 11月 6日 | 秋の自然観察 (江汐公園) (笹尾) |
| 11月13日 | 郷土の歴史と巨木観察会 (笹尾) |
| 2月19日 | クロツラヘラサギ観察カブトガニ観察会 (笹尾) |
| 3月20日 | 自然観察会 (江汐公園) (笹尾) |
| 4月29日 | 竜王山山野草ウォッチング (柴田、松永、嶋田) |
| 4月 | つつじ山散策ツアー (江汐公園) (笹尾) |
| 5月27日 | ヒメボタル観察会 (嶋田) |
| 5月28日 | ヒメボタル観察会 (嶋田) |
| 6月21日 | アサギマダラおいでませ作戦 (嶋田) |
| 7月 | アドベンチャーワールド (笹尾) |
| | 縄地公園自然観察 (笹尾) |
| 10月 4日 | 竜王山観察会 (柴田、嶋田) |
| 10月10日 | 竜王山観察会 (柴田、嶋田) |

4 その他

- ・講話やフィールドワーク
- ・観察会・勉強会



親子で物づくり (サ・アドベンチャーワールドにて)

第4支部 平成28年度活動報告

1 支部活動報告

第4支部では支部活動はなく、会員各自の自主的な活動を行っている。

2 緑の少年隊指導

1月 美祢市立川東小学校野鳥観察 (加藤)

7月 1日 宇部市立二俣瀬小学校

里山ピオトープ二俣瀬水生生物観察会 (原谷)

3 活動

11月13日 郷土の歴史と巨木観察会 (笹尾)

1月16日 街中の自然観察会(東沖緑地) (笹尾)

3月21日 椿まつり・花と緑を語ろう会 (江汐公園)

(嶋田・柴田・松永・笹尾)

4月17日 つつじツアー (江汐公園) (笹尾)

4月24日 竜王山の自然観察会 (環境学習推進センター主催)) (嶋田・柴田)

4月29日 竜王山観察会 (嶋田)

5月28日 ヒメボタル観察会 (竜王山) (嶋田)

6月19日 アジサイまつり協賛自然観察会 (江汐公園) (笹尾)

7月23日 ザ・アドベンチャーワールド (江汐公園) (笹尾)

カブトガニ観察 (下関市小月) (笹尾)

10月 8日 アサギマダラ生態学習会・観察会 (竜王山公園) (笹尾)

10月10日 竜王山の自然観察会 (環境学習推進センター主催))

(嶋田・柴田)

4 その他

・市内の公民館・小学校の講話やフィールドワーク (嶋田)



カブトガニ観察会 (下関市小月にて)

充実した活動をめざして

第5支部長 植田 高弘

第5支部は、個人活動を中心に進めてきました。最寄りの人で集まることは、ほとんどありませんでしたが、30周年記念誌の発行にあたり、第5支部でも会員個人の歴史はもちろんですが、支部の取り組んできたものをきちんと整理しておくことも大切なことではないかという話も出てきており、今後の活動について充実を期すため、以下のように考えました。



ヒゼンマユミ保護のための竹伐り作業風景

- 1 個人活動をより一層充実させていく。
記録を残したり、発表したりする。
- 2 蓋井島の竹伐り作業については、今後も継続するとともに、植生調査や作業道の補修作業等と並行して実施する。
- 3 下関の自然観察や保護活動について、さらに、研究を深めていく。また、支部で集まる機会をもつように努める。
会員の指導のスキルアップを図る。

☆蓋井島の竹伐り作業について

- ◎ ヒゼンマユミの竹伐り作業だけでなく、何か所か区域を定めて、若木の分布調査を手掛ける。また、昨夏の台風等で荒れ果てた作業道を補修するとともに、きちんとした道を確保する。

～ 今春の作業予定日 ～

4月8日(土)、5月6日(土)です。吉見港午前8時30分発(4月～10月)になります。ご協力よろしくお願いいたします。

【作業予定日は、変更する場合があります。】

☆つのしま自然館の行事予定

詳細・問い合わせ等：083-786-0430(兼FAX)

- | | | |
|------------------|------------|----------------|
| 2月11日(土) 貝の観察会 | 9:30～13:00 | 貝類の採集と種類を調べます。 |
| 3月11日(土) 渚の探鳥会 | 9:30～13:00 | 角島一円 |
| 5月13日(土) 春の自然観察会 | 9:30～13:00 | 角島：牧崎周辺 |

- ◎ つのしま自然館の活動をより一層広めて行く
とともに自然館主催の観察会等に出来る限り
参加するよう呼びかけていく。

みなさんのご参加をお待ちしております。



貝の採集と観察会風景

2017年度 北浦自然観察会行事計画

2016年

- 11月 6日(日) 総会 喫茶店ミラノ 午前10時より12時まで
- 11月 9日(水) 広島県安芸太田町 三段峡 紅葉 舟に乗り奥まで行く
- 11月20日(日) 山口県自然観察指導員協議会総会 萩市役所市民館第3会議室
- 12月 1日(木)～4日(日) 萩市中央公民館合同作品発表会 写真を展示
- 12月11日(日) 山口市阿東物見ヶ岳～高羽ヶ岳縦走

2017年

- 1月29日(日) 白滝山 ツララ・ニホンジカ
- 2月12日(日) 桂木山 秋吉台の山焼き、
- 3月 5日(日) 広島県総領町葦嶽山 セツブンソウ
- 4月29日(祝日) 岡山県奈岐山のイワウチワ、
- 5月13日(土)、14日(日) 江舟岳のホンシヤクナゲ観察会
- 6月 4日(日) 大分県三俣山 長者原より諏蛾守越～三俣山～南峰～北峰
- 10日(土) 番外 滝橋から阿武大橋まで(生物学会の行事と合流)
- 7月 2日(日) 田万川のヒメユリ・ヒメヤブラン・キキョウ
- 8月5日(土)、6日(日) 一泊二日 剣山 次郎笈泊まり
- 9月 3日(日) 秋吉台 ヒナノキンチャク・イヌハギ・ミシマサイコ
- 10月28日(土)、29日(日) 大山 ユートピア小屋コース 紅葉
- 11月26日(日) 日野町 根雨のオシドリ?

※番外 秋田駒ヶ岳、森吉山他



田万川のヒメユリ

竜王山の自然

山陽小野田市 嶋田 紀和

昨年3回にわたり、竜王山の春から秋までの山野草を“みどりの風”で24種紹介させていただいた。私は40年以上竜王山の変遷と、県内の山々を歩き山野草を見てきた。竜王山は秋吉台には及ばないが、四季折々たくさんの花が楽しませてくれる。その理由は海の傍に位置して海岸性の植物や山地の植物が混在している。群生地が多いのも特徴である。市街地に囲まれた136mの小さな独立峰はおもしろい存在といえよう。

昨年春で地元公民館主催の“竜王山山野草ウォッチング”は20回を数えた。参加者は年々増加してきたため、今では自然観察指導員の仲間と複数で対応している。

2010年から市の観光協会のHPに主として竜王山の花の開花情報を”花だより”で発信している。併せて、地元新聞、FM局、宿泊研修施設などでも発信されている。その他の観察会も年に何度となく開催されている。このような積み重ねで、昨年秋に広島市から花をターゲットにしたツアー客が来てくれた。



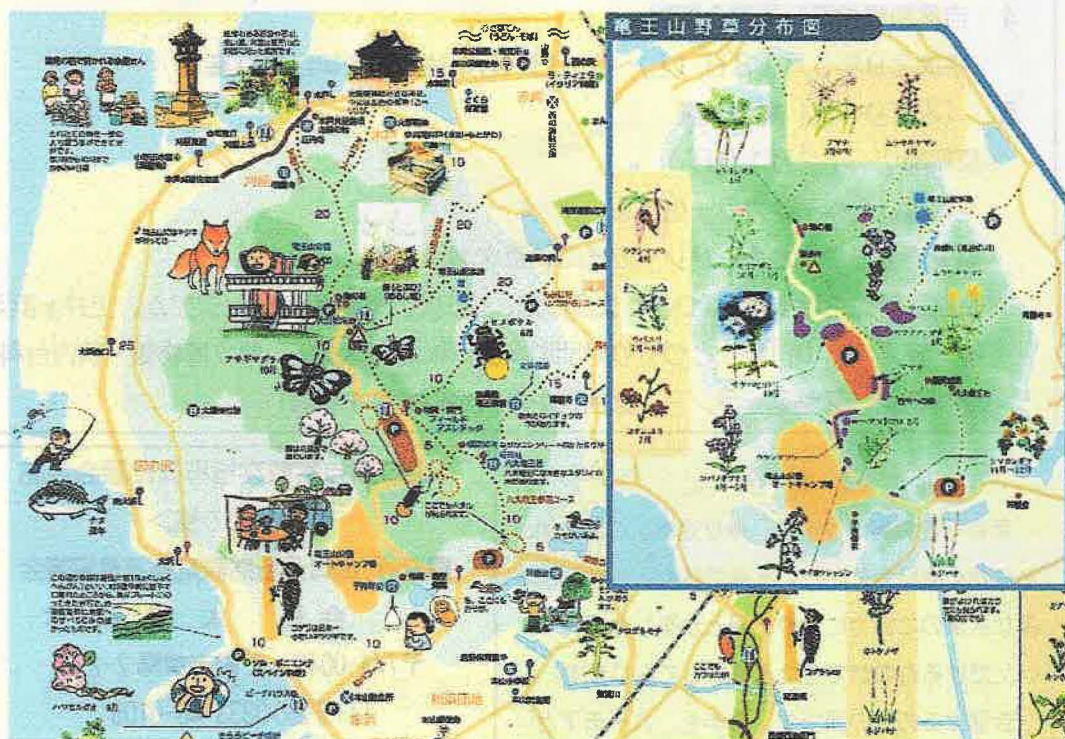
ツルニソジシのゾーニング

この20年間、地元ボランティア団体を中心に小学校を巻き込んで、官と連携しながらブラッシュアップを行ってきた。花の群生地のゾーニング、説明板や観察路の設置等だ。これらのことから竜王山が“花の山”として定着してきた。竜王山は、山陽

小野田市のランドマークで、2015年市で最初の“ふるさと文化資産”に認定された。竜王山周辺は多くの史跡や6世紀末から7、8世紀にかけて須恵器の一大生産土地であった。今でも奇岩の景勝地である本山岬の浜に1400年前のイイダコの鱗蓋が打ち上げられることがあり、歴史にロマンを感じるところだ。また、竜王山には山麓を含めて、日本で最大級のハマセンダン、クロガネモチ、スダジイの巨木も見られる。

私たちは竜王山を子供たちが自然体験できるフィールドを念頭に置いて磨いてきた。子供たちの親の世代以後は自然体験が遠い存在になってきている。自然と主体的にふれあうことで感性、創造力、優しさなどが育まれるというのに…。昨年、ある先生から「最近の子供は限度を知らないのですよ!」と言われた。だから陰湿ないじめも事件になるまで続く。自然界の生き物とふれあうことを重ねれば違ってくるのではなかろうか。

近年、竜王山に地元の複数の保育園、小学校、市内や近郷の保育園、小学校が訪れている。自然だけでなく、地元の歴史もよく理解した自然観察指導員が求められている。そう思うこのころだ。



※桜の名所「竜王山」、ぜひ一度、自然観察にお出かけください。

平成28年度第4回役員会議事録

開催日時・場所

日 時 平成28年11月13日(日) 10:00~12:15

場 所 下松中央公民館 ※出席 7名

議 事

1 「30周年記念誌」編集会議

- ・原稿がほぼ揃い、総ページ数は60ページ余りになる。
- ・写真が多い。表紙以外はモノクロにする。
- ・今年中に印刷屋に依頼し、来春には発行の予定。

2 平成29年度定時総会 11月20日(日)

9:30~10:00

受 付 (会場 萩市民館第3会議室)

10:00~11:00

定時総会 (")

11:00~11:30

ジオパークのビデオ視聴 (")

11:40~12:40

支部会、昼食、閉会 (")

13:00~15:00

笠山の観察

3 中国五県交流会

参加者4名。(黒田、脇田、植田、大田) 鳥取県三朝町(参加総数52名)

来年度は、8月26日(土)~27日(日)山口県周防大島町外入^{とのよう}

4 自然観察指導員講習会開催

平成29年5月13日(土)~14日(日) 徳地青少年自然の家

5 「みどりの風」編集会議

- ・原稿締切…12月10日
- ・写真は、全ページカラー化する。
- ・執筆者を増やすため、リレー方式の執筆を考えたい。
- ・会誌送付先を増やす。(つのしま自然館、豊田ホテルの里ミュージアム、土井ヶ浜ミュージアム、山口県ひとづくり財団環境学習推進センター、県立博物館・秋吉台科学博物館、フラワーランド、徳地青少年自然の家等を検討)

＜ 編 集 後 記 ＞

新春号をお届けします。振り返るとこの1年、とにかく原稿集めがたいへんでした。しかし、みなさまのご協力により、何とか楽しんで見ていただけるものができたと自負しております。

会誌はこの会の顔です。今年も、ユーモアと機知あふれる紙面づくりにつとめます。ご意見もお待ちしております。(U)

山口県自然観察指導員協議会会誌

＜みどりの風＞

■発行 山口県自然観察指導員協議会

会 長 大 田 和 彦

〒744-0043 下松市東陽 2-2-5

Tel(Fax)0833-46-0103

■機関誌編集長 植 田 高 弘

〒759-6603 下関市安岡町 8-14-21

Tel(Fax)083-258-2706